ALT

こんにちは
ルーカス・クラークソン
外国語指導助手（ＡＬＴ）
です

フリスビー道

もしだれかが、「ちょっとフリスビー投げてみない？」と言ったら、まず思い浮かぶのは、海辺でのピクニックとゆったりした夏の日々ではないでしょうか？僕自身もアルティミット・フリスビーというスポーツを知るまではそうでした。この機会に、面白い、しかも驚くほど単純なこの競技のちょっとした歴史を紹介させてください。

このアルティミットというスポーツは、1960年代後半にアメリカのニュージャージー州にあるコロンビア高校の校庭と駐車場で生まれました。当時アメリカはベトナム戦争真っ最中でしたが、国内では若者の行動が社会のいろいろなシーンをにぎわせていました。たぶんそういう同世代の刺激を受けたのでしょうか、学校で成績もふるわず、スポーツのエリートでもなかったコロンビア高校の生徒たちが、けっこう技術やスマートさを要求する競技を作り上げていったのです。彼らはフットボール、バスケットボール、サッカー、ネットボールなどの要素を取り入れました。でも道具としては、そのころ、はやっていたフリスビーを使ったのです。サッカーのはげしい動きと耐久性、フットボールのパスの技術、その両方を併せもつ全く新しいこのスポーツに、アルティミット（究極の）という名前をつけたのはとても適切だったと思います。たぶんアルティミットの一番面白いところはレフリーというものが無くファール、アウト、その他いろいろな問題を選手自身が審判することです。「スポーツ精神」という点から言うと、これはとても平等主義的ではないでしょうか。今ではアルティミットは、世界の40以上の国で多くの人々に愛好されています。

私が初めて、この素晴らしい競技を知ったのは大学時代でした。陸上競技部の長距離走の選手であったとき、コーチは日曜日、休みにしてくれました。そんな時、多くの人は体を休めたり、宿題をしたりするのに使っていましたが、私は、体を休めたくなかったので、走る代わりにアルティミットをやりました。初めは、正しい投げ方やキャッチの仕方を習っていないので、ただみんなのまねをするだけでした。しかし、徐々に私の技術は向上し、この新しいスポーツにいちずな深い愛情を感じるようになったのです。その愛情を私は、日本にも持ってきたのです。

私が初めて日本に来た時、多くのＡＬＴの仲間たちもこのアルティミットに興味を持っていると知り、すごくうれしかったです。最初の2､3年私は近県のチームと練習や試合を企画しました。そしてついには外国人が（日本人と一緒に）兵庫県で全国レベルのトーナメントを開催するまでになりました。（次のトーナメントは７月にあり、もちろん参加予定です。）ただ、アルティミットの人気は、日本でまだまだ高くないのが残念です。また、日本人の友だちに興味を持ってもらうのもなかなか難しいです。でも、あきらめずこのスポーツの魅力を話し続けたいと思っています。私は様々な機会に（剣道や、茶道の道のように）「アルティミット道（どう）」を生徒、友人、同僚に教えてきました。今も私はアルティミットを使って、英語と西洋文化を教えたりしています。もし今年の夏、どこか広場で僕の姿を見かけたら、「**Do you want to throw the disc around a bit?**（フリスビーやってみない？）」と尋ねてくれませんか。私はきっと満面の笑顔で、リュックからフリスビーを取り出すことでしょう。

＊この記事は、ＡＬＴの書いた英文を訳したものです。
英語版は中央公民館にあります。